

# 般若が覗む針の山

## 般若山・釜ノ沢五峰

標高  
般若山 390m  
釜ノ沢五峰  
590m

山行実施日  
2015年  
11月7日  
メンバー  
S木(L)  
H竜、H川  
S々木

お船の観音様で親しまれている法性寺の山門には、般若が覗んで迎えられた。奥に広がる風景は、絵はがきに切り取れそうであり、まっすぐに登っていく石段やつつじやもみじが続いていた。山門前に数台の車が止まれる駐車場や道路の反対側にはトイレもあり、地元の方々に親しまれているようだ。しっとりとした石段を登っていくと、本堂の正面にも般若が軒下から覗んでいた。そこに、にこやかな和尚が現れ、パンフレットと交換に整備の協力金300円を示唆された。般若山は法性寺を通って行くとのことだが、砂

岩の岩があちらこちらに台座し、里山の広葉樹と苔で包まれている。岩と岩が頭を合わせるような岩の門をくぐっていくと、龍虎岩や岩屋に並ぶお地蔵、そして、200mの巨大な船の形をした岩盤からなる奥の院には、船首にあたる所に聖観世音菩薩、船尾に大日如来が祀られていた。般若山という表示はなかったが、この奥の院、お船

観音を般若山というのだろうか。船の甲板となる岩峰は、秩父の里山が一望できて気持ちのよい所であった。

釜ノ沢五峰へは、少し登ったところに、下の標識があつたが尾根を辿ってみることにする。地図には点線があつたが実際にはあまり踏まれていないようであり、510m付近は伐採がされて茨や山椒など、とげのある低木がはびこって行く手を阻まれてしまった。痛い思いをしながらなんとか越えることができた。550m付近から東に枝尾根が延びており杉や檜、樅などの林を下っていくと、鉄塔に出た辺りで先ほど分かれた登山道と合流した。左岸に亀ヶ岳をみながら尾根を辿り、一度民家まで下った。沢を渡って釜ノ沢五峰に向かう。畑で草刈りをしていたおじさんが丁寧に道を教えてくれた。少し登ると、まずは一の峰の石塚を見つけた。二ノ峰はとても眺めがよく兔岩も見られた。ところが、表示の石塚が2つ並んでいて、目にする石塚

には三ノ峰とあつた。いつ二ノ峰を過ぎたのだろうかと探しにいったが見あたらず、お昼を食べて出発をした。次の石塚には三ノ峰と刻まれていた。つまり、だれかが二ノ峰の石塚の前に三ノ峰の石塚を設定したようだ。ちょっとした謎解きで短い距離なので楽しめたようだ。四ノ峰、五ノ峰は樹林の中であり、少しの登り返しで、565mの小ピークに出た。布沢を下りてもよかつたのだが、直線距離を優先して510m付近から急な左岸の尾根を下ることにした。午前中晴れていた天気も曇りとなり、風が冷たくなってきたが、510m付近の茨の山を分けるかと思うと、ちよつと気が重かつた。茨をかき分けるのはやっぱりいたかつたが、なんとか切り抜ける。まったく物好きである。鉄塔を過ぎて尾根を行くと杉が伐採されて倒れている。尾根の先に道路が見えたものの、急斜面を下った道路との間に川があり、急な左岸の斜面を下ることにした。地図には点線が記されているが、踏み跡らしきものは見あたらず、ロープを出してくだった。くすくすの斜面で靴はどろどろになり、とても快適とはいえないが、なんとが沢筋に下ることができ、

杭やテープの印があつた。水の涸れた沢筋を少し下ると民家に出てほつとする。帰ってみれば、「急がば回れ」急いでいたわけではないが、ゆっくり回って来れば良かったかなと思つた。車道を歩きながら、柿が赤くなつて行くのを見ながら里山の秋が感じられた。(S木記)



五ノ峰にて

9:00 法性寺～9:45 お船観音～  
10:45 550m 付近から東方の枝尾根下降～11:20 車道～11:25 釜ノ沢五峰登山口～11:45 一峰～11:55\12:30 二峰～12:40 三峰～12:50 四峰～13:00 五峰～13:03 565m 地点から尾根下降～13:35 478m 地点から北方の枝尾根下降～15:05 左岸の枝沢～15:25 車道～15:36 法性寺～帰埼